

人権・ハラスメント対策センター、ジェンダーフォーラム おススメの本

★タイトルをクリックしてください。立教大学 OPAC にリンクしています★

『マンガまるわかり ハラスメント』



野原蓉子（監修）、新星出版社、2020年

2020年6月施行のパワハラ防止法に対応していて、ハラスメントが、わかりやすいマンガと簡単な文章で紹介されています。何がハラスメントであるか、アウトとセーフという解説で理解しやすいと思います。飽きることなく最後まで読み進められ、読み終わると自然と理解できる本だと思います。

内山雅子（人権・ハラスメント対策センター専門相談員）

『同性愛は「病気」なの？ 僕たちを振り分けた世界の「同性愛診断法」クロニクル』



牧村朝子（著）、星海社、2016年

同性愛者が昔から区別されてきた事柄を、5つに分けて丁寧に説明しています。

①同性愛者という言葉ができる過程、②同性愛の理由を探した人々の話、③2度の世界大戦中に軍が同性愛診断に乗り出した理由、④同性愛者は人種のようなものなのだろうかを考えた人々の話、⑤現代の同性愛者の捉え方など、多方面からの見方が読者に深い理解を導く読みやすい本です。

内山雅子（人権・ハラスメント対策センター専門相談員）

『ハラスメントゲーム』



井上由美子（著）、河出書房新社、2018年

マルオスーパーのコンプライアンス室に持ち込まれるパワハラ、セクハラ、モラハラなどの相談の数々。秋津室長と室員の真琴は、社長と常務の思惑もからむ難題を解決できるのか！？笑いもスリルもありで、楽しみながらハラスメントの知識も増えるエンタメ企業小説。

尾崎啓子（人権・ハラスメント対策センター専門相談員）

『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』



ブレイディみかこ（著）、新潮社、2019年

英国で元底辺中学校に通う「ぼく」の日常を、母ちゃんも一緒に悩み、考え、語り合う。たとえば、「共感」「他者の立場に立つ」とはどういうことなのか。多様性や差別をどうとらえるかという自分なりの視座を考えさせられ、何度も読み返したくなる大切な1冊。

尾崎啓子（人権・ハラスメント対策センター専門相談員）

『レスビアン・アイデンティティーズ』



堀江有里（著）、洛北出版、2015年

社会学、レスビアン・スタディーズとクィア神学の専門家である堀江は、「レスビアン」としての理解にアイデンティティ・ポリティクスというメスを刺し、自分の中に隠されていた未完の可能性を発見し、肯定していく。

ゾンターク、ミラ（ジェンダーフォーラム副所長／文学部キリスト教学科教授）

『壊れる男たち——セクハラはなぜ繰り返されるのか』



金子雅臣（著）、岩波書店、2006年

「なぜセクハラは無くならないのか？」と少しでも疑問に思ったことがある方はぜひ本書を読んでみてください。「加害者の言い分」を読み進めると「男が悪い、女が悪い」では片付けられない根本的な社会問題が見えてきます。

金儒振（ジェンダーフォーラム運営委員／国際センター）

『ジェンダーについて 大学生が真剣に考えてみた ——あなたがあなたらしくいられるための29問』

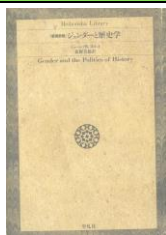


一橋大学社会学部佐藤文香ゼミ生一同（著）、佐藤文香（監修）、
明石書店、2019年

ジェンダー論を学んでいるけれど、友人たちからの疑問にすっきりと答えられないもやもやを抱えている学生たちが、皆で話し合っどう答えたらよいかを真剣に考えて書いた本です。ホップ・ステップ・ジャンプと三段階で解説されているので、ジェンダー論が初めての人にも、すでに学んでいる人にも役に立ちます。

横山美和（ジェンダーフォーラム事務局）

『増補新版 ジェンダーと歴史学』



スコット、ジョーン・W.（著）荻野美穂（訳）、平凡社、2004年

ジェンダーを「肉体的差異に意味を付与する知」と定義づけ、セックス／ジェンダーの二分法を見直し新たなジェンダー概念を提示しました。バトラーと合わせて読みたいですね。

横山美和（ジェンダーフォーラム事務局）

『介護する息子たち——男性性の死角とケアのジェンダー分析』



平山亮（著）、勁草書房、2017年

一見、介護の専門書ようですが、介護を通じて「息子としての男性」、すなわち男性の自立／自律に隠された無自覚な依存の問題を抉り出しています。近年、大注目の男性学の研究者である著者の言葉に、時折ギクッとしながら頁を捲りました。

片岡佑介（ジェンダーフォーラム事務局）

まだまだあります その1

ジェンダーフォーラム選定資料リスト

タイトル ★クリックすると立教大学 OPAC にリンクします	著者／編者／訳者、出版社、出版年
『 女ざらい——ニッポンのミソジニー 』	上野千鶴子（著）、紀伊国屋書店、2010年／朝日新聞出版社、2018年（文庫版）
『草むらにハイヒール——内から外への欲求』	小倉千加子（著）、いそっぷ社、2020年
『 はじめてのジェンダー論 』 【ebook】『 はじめてのジェンダー論 』	加藤秀一（著）、有斐閣、2017年
『 お砂糖とスパイスと爆発的な何か——不真面目な批評家によるフェミニスト批評入門 』	北村紗衣（著）、書肆侃侃房、2019年
『 「女の子」は学校でつくられる 』	サドカー、マイラ&デイヴィッド（著）、川合あさ子（訳）、時事通信社、1996年
『読書する女たち——フェミニズムの名著は私の人生をどう変えたか』	スタール、ステファニー（著）伊達尚美（訳）、イースト・プレス、2020年
『 ジェンダー論をつかむ 』	千田有紀／中西祐子／青山薫（共著）、有斐閣、2013年
『 説教したがる男たち 』	ソルニット、レベッカハーン（著）小路恭子（訳）、左右社、2018年
『 家事労働ハラスメント——生きづらさの根にあるもの 』	竹信三恵子（著）、岩波書店、2013年
『 ジェンダー・トラブル——フェミニズムとアイデンティティの攪乱 』	バトラー、ジュディス（著）、竹村和子（訳）、青土社、1999年
『 フェミニズム大図鑑 』	マッケン、ハンナほか（著）最所篤子／福井久美子（訳）、三省堂、2020年
『 私たちにはことばが必要だ——フェミニストは黙らない 』	イ・ミンギョン（著）、すみみ（訳）、タバックス、2018年
『 LGBT を読みとく——クィア・スタディーズ入門 』	森山至貴（著）、筑摩書房、2017年
『 ゲイの可視化を読む——現代文学に描かれる〈性の多様性〉？ 』	黒岩裕市（著）、晃洋書房、2016年
『 「からゆきさん」——海外〈出稼ぎ〉女性の近代 』	嶽本新奈（著）、共栄書房、2015年
『 戦争とトラウマ——不可視化された日本兵の戦争神経症 』	中村江里（著）、吉川弘文館、2018年
『 消滅世界 』	村田沙耶香（著）、河出書房新社、2015年
『 問題だらけの女性たち 』	フレミング、ジャッキー（著）、松田青子（訳）、河出書房新社、2018年
『 北欧に学ぶ小さなフェミニストの本 』	ブルーグレン、サッサ（著）、枇谷玲子（訳）、岩波書店、2018年
【映画】『セルロイド・クローゼット』 ★残念ながら立教大学図書館では所蔵していません	エプスタイン、ロブ／フリードマン、ジェフリー（1995）
【映画】『 何を怖れる——フェミニズムを生きた女たち 』 ★残念ながら立教大学図書館では所蔵していません	松井久子（2016）

まだまだあります その2

図書館にあるジェンダーやハラスメント関係資料の ほんの一部をご紹介します

タイトル ★クリックすると立教大学 OPAC にリンクします。	著者／編者／訳者、出版社、出版年
『よくわかるジェンダー・スタディーズ 人文社会科学から自然科学まで』	木村涼子／伊田久美子／熊安喜美江（編著）、ミネルヴァ書房、2013年
『ジェンダー・スタディーズ 女性学・男性学を学ぶ』改訂版	牟田和恵（編）、大阪大学出版会、2015年
『21世紀のジェンダー論』	池内靖子／二宮周平／姫岡とし子（編）、晃洋書房、2004年
『ジェンダーとわたし 〈違和感〉から社会を読み解く』	笹川あゆみ（編著）、北樹出版、2017年
『書いて考えるジェンダー・スタディーズ』	小平麻衣子／氷見直子（共著）、新水社、2006年
『オンナらしさ入門（笑）』	小倉千加子（著）、理論社、2007年
『母から娘へ ジェンダーの話をしよう』	権仁淑（著）、中野宣子（訳）、大越京子（まん画）、梨の木舎、2011年
『ジェンダーと身体 解放への道のり』	川本玲子（編著）
『炎上 CM でよみとくジェンダー論』	瀬地山角（著）、光文社、2020年
『ジェンダーフリーの絵本① こんなのはへんかな？』	村瀬幸浩（文）、高橋由為子（絵）、大月書店、2001年
『キャンパス・セクシュアル・ハラスメント対応ガイド あなたにできること あなたがすべきこと』（改訂増補版）	沼崎一郎（著）、嵯峨野書院、2005年
『キャンパスハラスメント対策ハンドブック』（改訂2版）	弁護士法人飛翔法律事務所（編）、経済産業調査会、2018年
『スクール・セクシュアル・ハラスメント 学校の性の暴力』	内海崎貴子／田中裕／藏原三雪／亀井明子／岡明秀忠（共著）、八千代出版、2019年
『キャンパス・セクシュアル・ハラスメント ガイドラインの手引き』	キャンパス・セクシュアル・ハラスメント全国ネットワーク編、ひだまり出版、1999年
『キャンパス・セクシュアル・ハラスメント 大学の責任、どこまで、どうとらせるか』	キャンパス・セクシュアル・ハラスメント全国ネットワーク編、ひだまり出版、1998年
『セクシュアル・ハラスメントと人権 キャンパス・セク・ハラの見方・考え方』	新谷一幸（著）、部落問題研究所、2000年
『セクシュアル・ハラスメント キャンパスから職場まで』	明治学院大学立法研究会（編）、信山社、2000年
『アカデミック・ハラスメントの社会学 学生の問題経験と「領域交差」実践』	湯川やよい（著）、ハーベスト社、2014年

タイトル ★クリックすると立教大学 OPAC にリンクします。	著者／編者／訳者、出版社、出版年
『大学におけるハラスメント対応ガイドブック 問題解決のための防止・相談体制づくり』	山内浩美／葛文綺（編）、福村出版、2020年
『 アカデミック・ハラスメントの解決 大学の常識を問い直す 』	北仲千里／横山美栄子（共著）、寿郎社、2017年
『 男女共生社会の大学 文科省セクハラ規程から大学評価へ 』	秦澄美枝（著）、社会評論社、2007年
『 がまんしないで、性的な不快感・・・セクハラと性別による差別 』	ビクトリア・ショー（著）、村瀬幸浩（監修）、小形恵（訳）、大月書店、2008年
『 セクハラの誕生 』	原山擁平（著）、東京書籍、2011年
『 マスコミ・セクハラ白書 』	WiMN（編著）、文藝春秋、2020年
【DVD】『 ナチュラルウーマン 』	セバスティアン・レリオ（監督）、2017年
【DVD】『 ジェンダー・マリアージュ 』	ベン・コトナー／ライアン・ホワイト（監督・プロデューサー）、2013年
【DVD】『 女を修理する男 』	ティエリー・ミシェル（監督）、2015年
【DVD】『 ハーヴェイ・ミルク 』	ロバート・エプスタイン（監督）、1985年
【DVD】『 カランコエの花 』	中川駿（監督）、2016年
【DVD】『 ハリウッドとアジア女性 』	エレイン・H・キム（監督）、2011年
【DVD】『 グローバルリベラルアーツへの扉 トランスジェンダーの人生 これが私だから 』	
【DVD】『 リリーのすべて 』	トム・フーパー（監督）、2016年
【DVD】『 彼らが本気で編むときは、 』	荻上直子（監督）、2017年
【DVD】『 イミテーション・ゲーム：エニグマと天才数学者の秘密 』	モルデン・ティルドゥム（監督）、2014年
【DVD】『 ブエノスアイレス 』	ウォン・カーウアイ（監督）、2008年
【DVD】『 チョコレートーナツ 』	トラヴィス・ファイン（監督）
【DVD】『 人生はビギナーズ 』	マイク・ミルズ（監督）
【DVD】『 キャロル 』	トッド・ヘインズ（監督）
【DVD】『 ムーンライト 』	バリー・ジェンキンス（監督）
【DVD】『 少女は自転車にのって 』	ハイファ・アル・マンズール（監督）
【DVD】『 テルマ&レイズ 』	リドリー・スコット（監督）
【DVD】『 レオニー = Leonie 』	松井久子（監督）
【DVD】『 女の子ものがたり 』	森岡利行（監督）
【データベース】『 Archives of Sexuality and Gender LGBTQ History and Culture Since 1940, Part I (セクシュアルティとジェンダーの歴史史料集成データベース 1940年以降のLGBTQの歴史と文化) 』	GALE 言語：英語 利用環境：同時アクセス数一制限なし・ログアウト不要・キャンパス全域・リモート可 利用対象：本学教職員、学生に限ります